

平成23年度第1回府中市立図書館サービス検討協議会 会議議事録

日時 平成23年10月5日（水）午後2時から3時

場所 中央図書館5階 会議室

出席者 栗田博之委員、鬼丸晴美委員、北谷豪委員、茅原幸子委員、高田小百合委員
金沢利典委員

欠席者 野口武悟委員、田中文子委員

事務局 斎田文化スポーツ部長、峯尾図書館長、坪井図書館長補佐、石黒、菅沼（記録）

1 資料確認

平成23年度第1回府中市立図書館サービス検討協議会式次第

府中市立図書館サービス検討協議会委員名簿

府中市立図書館サービス検討協議会要綱・・・資料1

平成22年度府中市立図書館事業概要・・・資料2

ルミエール府中 施設案内・・・資料3

ルミエール府中アンケート結果・・・資料4

振込み委任状及び返信用封筒

50周年記念事業 講演会とコンサートのリーフレット

2 依頼式

教育長からの依頼状を皆様の前に置かせていただいている。

これをもって依頼状の伝達に代えさせていただく。

3 文化スポーツ部部長挨拶

この度は、府中市立図書館サービス検討協議会の委員を快くお引き受けいただき、誠にありがとうございます。また、本日は雨天で足元が悪くお集まりいただきまして、ありがとうございます。

府中市立図書館は、今年50周年を迎えます。昭和36年に開館し、3年後には東京オリンピック、その後オイルショック、バブルから現在にいたるまで、社会情勢の変化はあったが、府中市立図書館は、安定してそれほど社会の変化に左右されずに成長してきました。

しかし、ここ最近情報機器の発達やインターネットの普及、電子書籍の時代の到来など図書館をとりまく環境は大きく変わってきています。電子書籍への対応は、図書館のあり方自体を変える大きな課題となると考えられます。

中央図書館は、平成19年12月に、市民会館との複合施設として開館いたしました。朝9時から夜10時までの長時間の開館や、ＩＣタグを活用した予約コーナーや自動貸出機など最新技術を導入し、レファレンスサービスやハンディキャップサービスなどの充実を図ってまいりました。その結果として、毎年100万人以上の方にご利用いただいています。

また、中央図書館とは別に12の地区図書館があり、こちらは文化センターに入っているため、単独では開館時間などの変更はできません。さらに文化センターにおける指定管理の導入は市としての大きな目標ですが、その可否などもこの会で意見を伺っていきたいと考えています。

この中央図書館と12の地区図書館を合わせた府中市立図書館が、課題を解決しどのような運営を行っていくべきなのかを皆様にご自由に論議いただき、利用者の方がより満足いただけるよう改善していきたいと考えております。

お忙しい皆様には大変申し訳ありませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。

4 委員自己紹介

5 事務局紹介

6 会長・副会長の選出

会長に栗田委員を選出、副会長に鬼丸委員を選出。

7 会長・副会長挨拶

8 議題

(1) 府中市立図書館サービス検討協議会内容などの説明

事務局 お手元の資料1の府中市立図書館サービス検討協議会要綱をもとに説明する。趣旨は、第1条にあるとおりで、利用者のニーズをすいあげサービス検討をしていきたい。利用者の意見を聞く一つの施策として、本庁舎と同様意見箱を設置している。また、後ほど説明するが、アンケートの実施や懇談会の開催により、利用者の意見を伺う場を設けている。しかし、最近は複雑で多岐にわたるサービスを展開しており、また利用者の要望も多岐にわたるので、なかなかサービスの発展が進まない。そこでこの協議会をたちあげ、図書館の各サービスごとに概要を把握していただき、全体的に利用者へのサービスを向上するために審議していただきたい。具体的には後ほど事業概要を説明する。中央図書館をはじめ地区図書館全部で13、ほとんどが複合施設の中で運営している。中央、地区図書館の役割分担や指定管理の問題などさまざまな課題について皆様にご意見いただきたい。内容については第2条の事項で検討いただきたい。いただいた意見を内部で検討し、PFI事業者とも話し合った上で、できるだけ実行に向けて動きたい。

(2) 府中市立図書館の事業概要説明

事務局 お手元の資料2の平成22年度府中市立図書館事業概要をもとに説明する。

3ページに中央図書館と地区図書館全部で13の所在地、開設時期が書いてある。ほとんどが文化センターなどの複合施設である。4ページは、各図書館の所蔵資料数である。全館で130万冊を超える資料と、それ以外に新聞、雑誌、視聴覚資料、マイクロフィルムを所蔵している。規模的には大きな図書館となっており、リクエストも含め多くの市民の皆様にご利用されている。6ページには、図書館利用状況が記載されている。東日本大震災の影響はあるが、22年度は21年度に比べて貸し出し数が全体的に減少している。開館日数も減っているのも、一日平均というより全体的な利用者数が減っている。後程ご覧いただくアンケートにもあるが、視聴覚資料については満足度が低いという意見をいただいている。

中央図書館は、PFI事業を行っており一部民間に委託しているが、資料の選定や利

用者の登録、レファレンス、児童サービス、ハンディキャップサービス、地域郷土資料サービスなど市側で行っているサービスがあり、内容は14ページ以降に掲載されている。27ページには、主な年間事業が掲載されており、(1)(2)は市側で、(3)以降はPFI事業者が企画運営する事業となっている。それぞれが持っている経験やノウハウを活用して、平行して事業を行っている。こういった企画をきっかけに利用者の方に図書館へ足を運んでもらい、図書館の資料を活用していただくことを目指している。

最後に29ページに市民・登録者一人あたりの比較等がある。総合計画では、(2)人口1人あたりの図書・視聴覚資料貸出数を現在の10.4点から12点に増やすことを目標にしている。そのために先程説明したサービスや事業を展開している。その他にも参考資料のところに細かく掲載しているので、時間のある時に読んでいただきたい。

茅原委員 市の企画とPFI業者の企画の内訳ををもう一度教えてほしい。

事務局 27ページの(1)(2)は市側で企画運営している。(3)～(8)までをPFI業者が企画運営している。PFI業者からは、企画書を提出してもらい吟味した上で承認し実行していただいている。

金沢委員 市の職員と委託業者の職務の分担はどうなっているのか。

事務局 こちらの資料には載っていないが、公開しているPFI事業者との役割分担の一覧資料があるので後ほど配布する。もう少し細かく業務が分かれて一覧になっている。

鬼丸委員 資料2のP29(1)(2)に関して、人口一人当たりの貸出冊数が8.8点で、目標は(2)図書・視聴覚資料貸出数を12点にと掲げられていたが、(1)の図書資料はどうか。(2)に含まれる視聴覚資料に重きがあるということか。

事務局 もちろん図書資料の貸出冊数も増やしたい。新中央になって貸し出し冊数の上限を従来の5冊から10冊に増やしたが、2週間で読める量を考えるのか10冊フルに借りていかれる方ばかりではない。上限を倍にしても、(1)の図書資料の貸出は倍増しているわけではない。視聴覚資料に関しては、貸出点数が減少しているので、方策を考えて増やしていきたい。

会長 この目標数値を考えると、どの媒体を取り上げるかを検討するべきである。他地域との比較もできるのではないか。そういった資料があれば、後日提示していただきたい。

金沢委員 一人あたりの貸出点数を12点にするという以外に、総合計画でもりこまれているテーマはあるか。

会長 事業計画を準備していただいたので、持ち帰って検討して頂きたい。

事務局 現在の計画は25年度までで第5次計画である。この検討会でもとりあげて、施策を提案してもらいたい。図書館資料の延べ利用者数は、現状は75万冊で、25年度には100万冊に増やしたい。22年度は6ページの87万冊となっている。新館がオープンして開館時間の延長や近隣の市との相互利用も含めて施策を考えなければならない。例えば、HPを効果的に利用したり、3Fの特集展示をうまく使って貸し出し冊数を増やしたい。

高田委員 相互利用ができる近隣7市を拡大する計画はあるか。

事務局 8、9ページに載っているが、京王線の関係で、世田谷区を入れてほしいという意見がある。

高田委員 ハンディキャップの勉強会などで他市に行くことがあるが、三多摩全域や東京都全域で相互利用できるようにする計画はあるか。例えば武蔵野市など。

事務局 7市以外への相互利用については今後検討していきたい。

会長 大学図書館はかつては紹介状がないと相互利用はできなかった。今は、学生証で借りられる図書館が増えてきた。また、ネットで検索して、インターライブラリー・ローンで送ってもらい、必要な資料を手に入れることもできる。しかし費用が発生するし、リスク管理の問題もでてくる。拡大する可能性はあるということと考えてよいか。

事務局 現在、相互利用は14%である。決算会議で、市の図書館の本は税金で買っているのに、全てオープンはどうか、という意見がある。リクエストと学習室の利用は市民のみとなっている。

会長 互恵的な関係ということで、その問題はクリアできるのではないか。大学間の相互利用にも同じ問題がある。一方の大学にはたくさん利用があり、もう一方の大学には余り利用がないというケースもある。長期的にみてバランスがとれていればよい。相互利用は拡大していく可能性を追求してもらいたい。

高田委員 ほとんどが複合施設だということだが、複合施設以外はないのか。

事務局 全部複合施設となっている。中央図書館は、ルミエール府中の建物の3、4、5階を使っている。生涯学習センター図書館は、生涯学習センターにあり、宮町図書館は、ふるさと歴史資料館と同じ建物にある。その他の地区図書館は、各文化センターの建物内にある。

会長 議題はこれで終了する。今後の日程について事務局より説明していただきたい。

(3) 今後の日程等について

事務局 開催ペースは、年間3回を考えている。今年度は2回とする。次回は、来年の2月あたりを考えている。日程の調整は、メールで行う。お渡しした名刺のe-mailまたはホームページに図書館のアドレスが掲載されているので、皆様のアドレスを送っていただくか、今日アドレスがわかる方は記入していただきたい。

会長 事務局から、次回開催の候補日をあげていただきたい。

事務局 次回の希望日候補をメールでお送りするので、都合の良い日に○をつけてもらう形にする。

会長 メールで回答いただいて、なるべく多くの委員が出席できるよう調整お願いしたい。その他として、2点事務局から案内がある。

(4) その他

事務局 最後に、資料4のアンケートについて説明する。ホームページにもアップされている内容だが、毎年満足度調査をしている。資料はカウンターでアンケート用紙を配付し、箱にて回収している。4段階で評価いただいている。多くは4または3で、利用者は概ね満足している。しかし蔵書資料6～9は満足度がやや低い。その点どう改善できるか検討したい。次のページでは回答いただいた方のプロフィールが載っている。このアンケートは、図書館来館者に対して行なっている。昨年度、市の世論調査で図書館をとりあげて、図書館を利用しない方への調査をした。利用しなかった理由として、仕事で図書館を利用する時間がない、本は買う、などといった回答を得た。図書館を

利用してこなかった方々に利用してもらうにはどういった施策があるか、今後の検討課題となっている。

資料用封筒の中に、謝礼支払い関係の振込み委任状と封筒が入っているので、記入の上郵送していただきたい。

今年、府中市立中央図書館は、50周年を迎える。12月18日（日）に50周年記念事業を行うので、その講演会および演奏会のちらしを配っている。これらの前に13時より記念式典を行うので、時間の都合のつく方は、参列していただきたい。そのあとの講演会と演奏会にも参加していただきたい。

会長 次回までに本日の資料を分析して、皆様には課題や提言等まとめていただきたい。50周年記念式典への参列、振込み関係の委任状の返送、e-mailアドレスの事務局への通知をお願いします。他に次回までに考えてほしい事項など何かあるか。

高田委員 対面朗読のサービスを現在中央図書館でしか受けることができない。しかし視覚障害の利用者は遠くから大変な思いをして図書館に来る。地区館で対面朗読のサービスはできないか。また、対面朗読サービスのPRがうまくできていないと感じる。

事務局 PRは、市の広報やちらし、図書館のホームページで行っている。新しいPR方法も皆さんからのアイデアをいただきたい。

会長 掲示などは、関心のある人しか見ない。口コミの方が強い。参加して良かったというと広がる。今回は体制が整ったということが伝わる内容であればいいのではないか。事務局で実施の可能性も含めて検討してもらいたい。ホームページでのPRは、障害のある方に対しては難しい。

鬼丸委員 次回までに皆さんで考えてくる議題はあるか。

事務局 検討議題がある方は、メールでいただいて、事務局で検討する。事務局でも検討していただきたい内容を事前にメールでお知らせする。希望の資料がある方は、事務局へ連絡いただきたい。

鬼丸委員 調布市の図書館の資料がほしい。利用者数が増加している。どのような施策があるのか知りたい。

会長 委員の方からも要望や検討したい事項を出していただきたい。次回開催日時の1ヶ月程度前までであれば議題に載せることが可能である。

館長 10月13、14日に全国図書館大会が調布で行われる。14日の分科会には府中も会場になっているので、お知らせする。このあと、時間のある方は、館内を案内する。

9 館内視察

10 閉会

次回府中市立図書館サービス検討協議会

日時：平成24年2月（日程は調整する）

場所：府中市立中央図書館 5階会議室